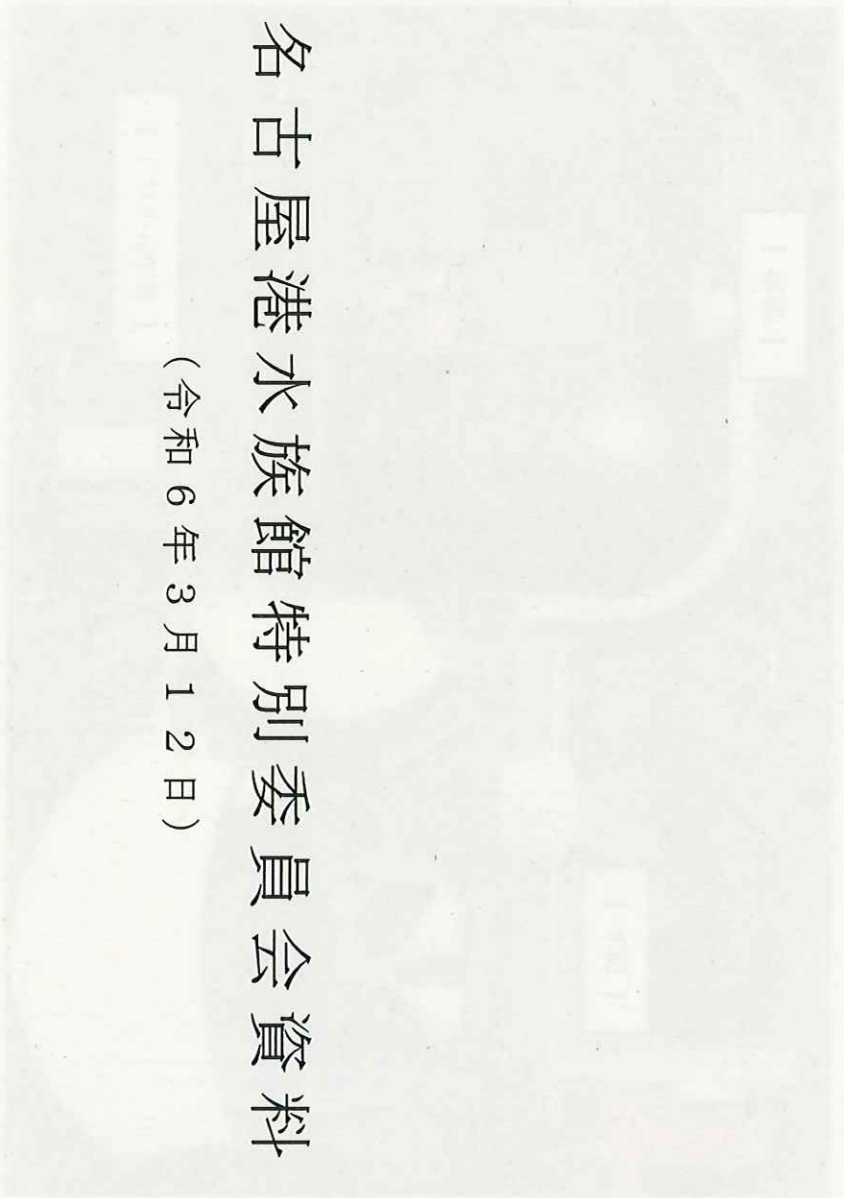


名古屋港水族館特別委員会資料

(令和6年3月12日)

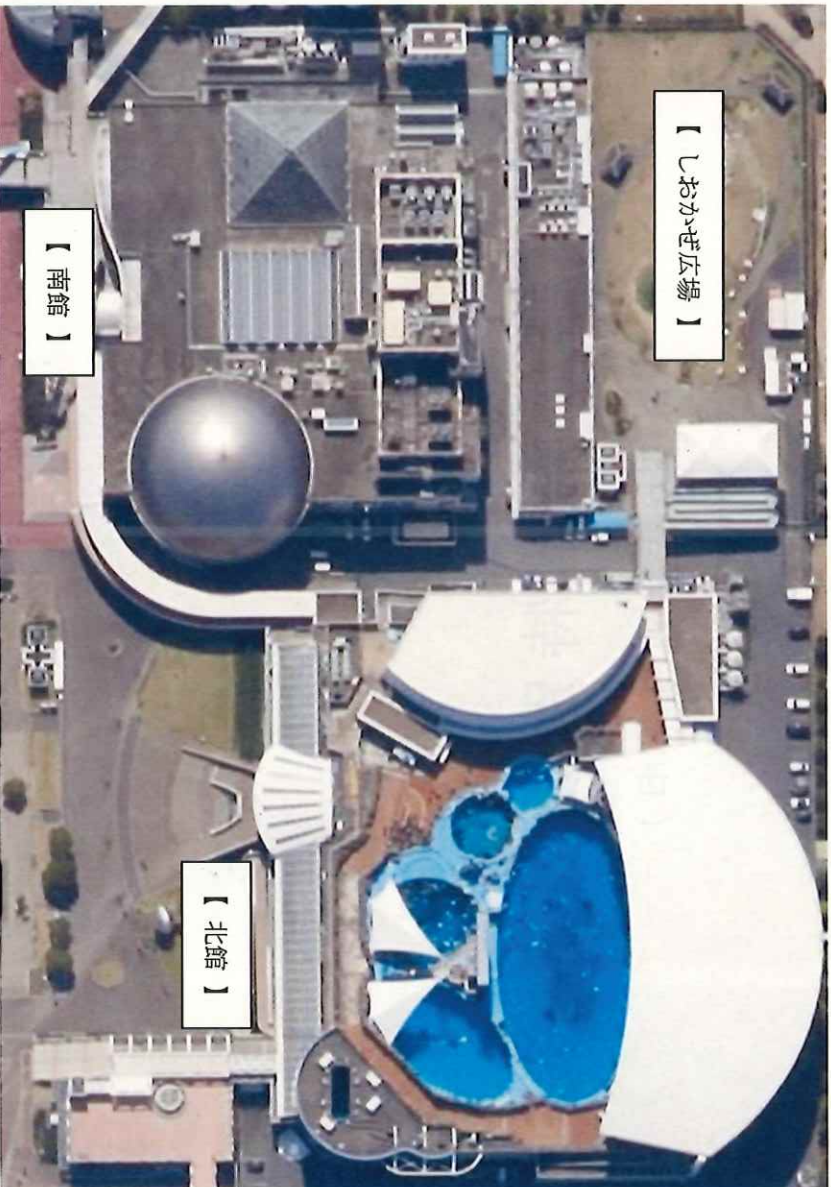


目 次

名古屋港水族館の大規模補修と機能強化について

1 大規模補修と機能強化の必要性	1
2 有識者会議における主な意見	2
3 今後の予定	4

【名古屋港水族館 全景】



名古屋港水族館の大規模補修と機能強化について

名古屋港水族館（以下「水族館」という。）は、平成4年の開館から30年が経過し、引き続き安定した生物の飼育のためには、水処理設備や電気設備など基幹的な設備の取替を要する大規模な補修が必要となっている。また、これからも多くの入館者を迎えるに当たり、更なる魅力向上に向けた施設の機能強化も必要となってきたことから、専門的知識を有する有識者からも意見を聴取しつつ、大規模補修と機能強化について検討を進めている。

1 大規模補修と機能強化の必要性

- ・設備全体の耐用年数が到来し、展示水槽では経年劣化による漏水が生じていることなどから、生物の生命維持や安定した飼育展示のためには、老朽化した基幹的な設備の取替を行う大規模補修が必要である。
- ・混雑対策については、GWや夏休み期間などの繁忙期のほか、北館のイベント終了時に多くの入館者が同時に移動してくることにより密集しやすいため日本の海エリアや、観覧時間が長い傾向にあることから混雑が生じやすいペンギンエリアの観覧スペースを拡張するなどの改善が必要であるが、そのためには展示水槽を集約しつつ、効果的な再配置を行う必要がある。
- ・安全対策については、安全で安心して観覧するためのスロープの拡張や、安全な作業環境の確保に向けた改善が必要である。
- ・利便性の向上については、車いす利用者など誰もが利用しやすい、トイレや授乳室などのアメニティ設備の改善、団体客も利用可能な全天候型の休憩スペースの検討、館内の配置がより分かりやすい案内サインの改善が必要である。
- ・展示の魅力向上については、老朽化したデジタル技術による展示の改善や、地球環境問題の啓発など、入館者により分かりやすく伝える必要がある。



【授乳室の現況】

水処理設備
電気設備
混雑対策
安全対策
利便性

510億
近隣の土地の活用は考えられ、Tamaの旧バスター
遊歩道の整備
生息地への影響
遊歩道の整備
遊歩道の整備
遊歩道の整備

2 有識者会議における主な意見

令和5年度に計3回(8月・9月・1月)の有識者会議を開催し、以下の事項について意見を聴取した。

(1) 新たな展示に向けたコンセプト・テーマへの考え方について

「建て替えの必要はないものの、老朽化対策としてリニューアルが必要であり、入館者にもリニューアルした印象が分かるように、水族館全体のコンセプト・テーマを作る 것이よい。」との意見が有識者からあり、新たな展示に向けたコンセプト・テーマへの考え方を以下のとおり提示したうえで、意見を聴取した。

・北館は過去から現在の地球、南館は現在の地球を展示テーマの背景としており、新たに過去から未来へつながる、これからの地球を考える水族館を目指していくため、「未来」を展示コンセプトとして捉える。

・近年の地球環境問題である気候変動は、海洋生物や南極の氷に与える影響が懸念されていることから、南極を通じて地球環境や日常生活とのつながりなど、地球環境問題の啓発を進める。



【南極の海エリア】

<有識者の主な意見>

- ・「博物館法制度の今後のあり方」(文化庁)には、「これからの博物館・水族館の役割はモノを介して人と人を結びつける場としての役割があり、「つながぐ」ということが求められている。」との説明がある。
- ・「つなげる」という言葉を使うことで、能動的に教育面や種の保存に取り組み、過去から現在、未来を「つなげる」という意味合いが強まるのではないか。
- ・過去から未来への生物の進化と、未来や次世代へつながるといふ意味合いがあり、時間軸の「つながり」になるのではないか。
- ・国内で温暖化を見据えたコンセプトを持つ水族館は見当たらない。知る範囲では、ドイツにクリアハウス気候体験ミュージアムがあり、気候変動に関する博物館としては世界中で1つしかないようで、名古屋港水族館ではこのテーマを取り扱ってほしい。
- ・名古屋港は南極観測船ふじが探留されている場所であり、「ふじの旅」という観点で見れば、ふじが南極へ旅をしていく地域での自然環境や気候変動を掘り下げて、展示の中で表現できればよいのではないか。
- ・名古屋港水族館の独自性を出し、気候変動をいち早くテーマとして取り上げた先進的な水族館であることを強調するとよい。

(2) 水族館の運営面について

混雑などの対策として入館料を変動させる方策や、収入確保・公共負担、デジタル技術を活用した教育展示などについて意見を聴取した。

<有識者の主な意見>

ア 価格変動制 (ダイナミックプライシング) について

集客・利益・市民の参加 結果を推し、市民の参加 混雑を減らす

- ・ 何のために価格変動制を導入するのか整理しなければならぬ。導入する理由が混雑緩和のほかに必要ではないか。
- ・ 価格変動制の導入に伴い、窓口のオペレーションが変わるなどのコストも発生するため、その点は慎重に考えてほしい。
- ・ 入館料を変動させる社会実験を行い、需要と価格との関係を把握し、利用者の反応を見てから値上げを検討したかどうか。
- ・ 名古屋港水族館の入館料は、他園館と比べて割安の印象がある。価格変動制の導入よりも基本料金の値上げをするのが先ではないか。

イ 収入確保・公共負担について

- ・ 入館料の無料や減額をしていることに対し、他の民間施設を圧迫するという意見もある。物価が上昇している背景も含めて、今まで無料にしていた人についても、料金に関する議論が必要である。 ?
- ・ 教育や生態系の保全など社会貢献の費用が利用者により支えらえることを知れば、入館料が多少高くても理解される。
- ・ 教育などの社会貢献の費用は公共が負担するべきであり、受益者が負担するべきかは疑問である。
- ・ 地下鉄等の敬老パスは、交通局の負担ではなく福祉の予算で計上していることと同様に、学校教育の割引額は水族館側で負担するのではなく、学校側で負担するのが妥当ではないか。
- ・ 公共施設であるため、一定の公共負担を入れつつ、受益者負担として経費をどのように賄っていくかが焦点であり、入館料は急激な社会情勢の変化を見据えつつ、公共・民間を含め他園館と比較しながら検討した方がよい。

ウ デジタル技術を活用した教育展示について

- ・ 実物があつてこそその水族館であり、実物だけで伝わらない部分をデジタルで補完するような活用が望ましい。
- ・ デジタル技術は、陳腐化や故障して使えなくなるケースも多いため、先進事例や新しいコンテンツの活用が得意な民間企業と連携するなど、常に新しいものを提供できるとよい。
- ・ デジタル技術の活用は、館外からアクセスでき、現地に行きたくなる気持ちにさせることが大事である。

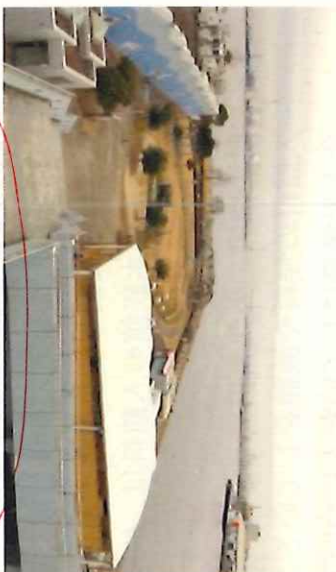
1. 市民の参加
PR する

(3) 大規模補修と機能強化について

設備の老朽化対策、飼育環境や作業環境の改善、利便性の向上などについて意見を聴取した。

＜有識者の主な意見＞

- ・ 施設本体の耐久性に問題がないため、建て替えの必要はないものの、設備が老朽化しており、リニューアルが必要である。
- ・ 大規模補修だけに終わらずに、リニューアルをした印象を入館者に分かるようにした方がよい。
- ・ 安全で安心な飼育環境、作業環境の改善に関して、館内が狭隘であることは理解するが、バックヤードを広げると観覧エリアに負担がかかるので、敷地内トータルで、屋外も含めた敷地の有効活用という観点で考えてほしい。
- ・ 名古屋港水族館は、多くの利用者がいる集客施設であるため、時代のニーズに合ったアメニティ設備への改修をすることが必要である。
- ・ 利用者目線で見ると、案内表示は分かりにくいいため、観光施設としての案内方法について、他施設の事例等を参考にするとともに、デジタル技術の多方面の活用を検討するとよい。



【屋外施設（しおかぜ広場）】



【参考：利便性の高いアメニティ設備】

(出典：(株) LIXIL)



【参考：デジタル技術を活用した案内】

(出典：あいちデジタルアライアンプラジェクト)

3 今後の予定

有識者から得られた意見を参考にしながら、基幹的な設備の老朽化対策、施設の機能強化及び運営面のほか、新たな展示に向けたコンセプト・テーマも先導的に国内外に発信できる内容となるように、更なる調査研究に鋭意取り組んでいく。

〈参考〉 他園館のコンセプト・テーマ

園館名	コンセプト	テーマ
沖縄美ら海水族館 (沖縄)	自然豊かな沖縄の海をそのまま展示する	沖縄の海との出会い
大阪・海遊館 (大阪)	すべてのは、つながっている	「環太平洋火山帯 (リング・オブ・ファイア)」 「環太平洋生命帯 (リング・オブ・ライフ)」
横浜・八景島シーパラダイス 「アクアミュージアム」 (神奈川)	海と島のつながり	五感体感
サンシャイン水族館 (東京)	天空のオアシス	ココロ動かず、発見がある
〈参考〉 名古屋港水族館 (愛知)	南館：南極観測船ふじの航路に沿って生息する生物を展示することで「現在の地球」の姿を学ぶ 北館：海で生まれた生物が生活の場を陸上に変え、再び海へ戻った生物の進化の過程により「過去から現在」に至るまでの地球環境と生物の歴史を学ぶ	南館：「南極への旅」 北館：「35億年はるかかなる旅 ～ふたたび海へもどった動物たち～」

